



資材置き場やヤード
増加への対策は
吉川 三津子議員



▶ 市民の力も借り、条例運用を見直す

問 ヤードや資材置き場・ゴミの山が増えている。事業者による関係住民への事前周知・意見聴取を義務化した条例が制定され、10年経った。関係住民・周知する範囲とは。

答 総代の意向に基づいて決定する。

問 条例で、総代に法的な権限が付与されているのか。

答 条例上、総代に法的な権限はない。今後、総代に過度な責任や負担がかからないよう運用を研究する。

問 事業者が住民周知・意見聴取もしていないのに、市が受理した事例もある。駐車場で申請されたのに資材置き場になっている事例もある。操業後の違反の監視は。

答 適切な届出、関係機関や市民からの情報提供等を有効に機能させ、実効性の確保に努める。

——— 単身高齢者の入退院・入所・終末支援を ———

問 4地区の75歳以上の独り暮らし高齢者人数は。

答 佐屋888人、立田122人、八開93人、佐織581人。

問 高齢者の困りごとに対する新しい仕組みづくりについて、市長の考えは。

答 今のサービスを時代に合ったものに見直すために、いろいろな状況を把握しながら進めていかなければならない。



歴史と文化を守る
ために記憶に残す
竹村 仁司議員



▶ 外部専門家の伴走支援を活用する

問 歴史と文化を守るために記録と記憶に残す、デジタル化や情報発信がある。本市の取組みは。

答 連携体制や仕組みの構築を進めていくため、今年度より実施する外部専門家の伴走支援を活用しながら実効性のある取組みを推進していく。

問 佐織歴史民俗資料室を訪れ、「尾州古城志」という展示から知ることのできる史実は。

答 織田信長公が勝幡城で生まれたとする勝幡城生誕説を裏づける根拠の一つとなる。

問 「勝幡城生誕説」今後の取組み・課題は。

答 勝幡城址には城郭が存在せず、視覚的に訴える資源に乏しいことが今後の誘客における課題だ。

問 デジタル技術、何もなくてもスマホをかざすと当時の勝幡城が画面上に現れるアプリなど視覚的に勝幡城の歴史的な魅力を再認識することができるのでは。

答 デジタル技術を活用した見える化は、シティプロモーション戦略に基づき、多角的な発信に努めている。今年度から3年間、外部専門家の伴走支援を活用し、より効果的な情報発信の仕組みづくりに取り組んでいく。



道の駅の樹木は
将来的にどうなるか
永田 千佳議員



▶ 木陰の形成で暑さを和らげる空間創出へ

問 熱中症搬送時の状況は。

答 令和7年は、住宅23人、道路14人、不特定多数が出入りする場所の屋外10人、仕事場6人、学校1人、不特定多数が出入りする場所の屋内2人、その他1人。

問 住宅のエアコン普及率9割以上の中、屋外や道路で熱中症になる人が多いということは、足りていないのはエアコンではない。熱中症発生場所の検証から、まちそのものを涼しくするという考えにシフトチェンジすべき。樹木がもたらす価値に注目したい。木陰が体感温度を下げるだけでなく、木が能動的に蒸散することで気温を下げる。健康や自然環境への寄与のみならず経済活性化や減災効果も。豪雨時の雨水流出の抑制、地盤強化などの減災効果が期待できる。樹木の多さは管理費を上回る便益が報告され、死亡率の低さと関連し、樹木を公衆衛生インフラとして再定義することを提言したい。そのため、道の駅の樹木は将来的にどうなるかを伺う。

答 木陰の形成を通じ、暑さを和らげる空間の創出につながるものと考えている。



立田南北小を先行した
適正化の考えは
中野 利哉議員



▶ 検討を進めていく

問 愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策基本計画（第Ⅰ期）の見直しに係る協議の進捗状況は。

答 基本方針（改訂版）は検証のうえ現状のままとし、5つの施策の取組優先順位などについて協議した。

問 愛西市の中学校で専科教員の不足は生じているか。

答 永和中、立田中、佐織西中で技術科教員が各1人不足しており、別の教科の教員が授業を担当している。

問 学校の改築・大規模改修の費用見込み額は。

答 大規模改修は約47億円、改築費用は約80億円。

問 A中学校・B中学校は空き教室の状況から、改築・大規模改修を待たず先行して規模適正化する考えは。

答 保護者の意見の確認方法も含め協議する。

問 立田南部小学校と立田北部小学校は急速に児童数が減少している上に、他校舎より老朽化が進行している。A中学校の新設を待たず先行してC小学校の校舎を用意し学校規模適正化を進めてはどうか。

答 立田中学校のグラウンドの広さなどから、C小学校の校舎を建築・設置し、一定期間内の立田中学校との併用も可能であると考えられる。検討を進めていく。